

社会医療法人愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院

(大阪府高槻市)

移転を機に障害者病棟を新設 駅直結の都市型リハビリ専門病院

2011年7月に新築移転した愛仁会リハビリテーション病院は、療養環境の充実に加え、障害者病棟を新設し、地域のニーズに応える「トータルリハビリテーション病院」をめざして新たなスタートを切った。

撮影＝中野たま



屋上庭園では、晴れた日には患者や利用者が散歩する姿やセラピストとともにリハビリを行う様子が見られる



←小児障害者病棟のプレイルーム「みんなの森」。壁は子どもたちが描いた絵をもとにデザインされている



↑人工透析や療養環境の充実を図るべく、高槻病院の人工透析室を愛仁会リハビリテーション病院に移転し、「血液浄化センター」としてスタートした



→「地域のリハビリ専門病院として、設備、スタッフともに充実したリハビリ環境を整備できました」と話す山本欣宏院長



↑小児障害者病棟「ひまわり」は、天井の壁紙を青空にするなど、病院らしくない雰囲気となっている



←エントランスは吹き抜けになっており開放的だ



病院DATA
社会医療法人愛仁会
愛仁会リハビリテーション病院
住所：大阪府高槻市白梅町5-7
電話：072-683-1212
<http://www.aijinkai.or.jp/reha/>
病床数：225床(回復期リハビリテーション病棟168床、障害者病棟57床)

←リハビリテーションセンターでは、365日切れ目のない充実したリハビリの提供を通じ、在宅療養復帰を支援する



↑電子カルテにセラピストがリハビリ評価を入力し、全職種が情報を共有している

←近鉄スマイルサプライ株式会社と協同で、各患者に応じた車イスの選定と貸し出しを無料で行う



↑2012年4月にはJR高槻駅とデッキで直結する

365日充実したリハビリで「再びその人らしい生活に」

大阪と京都の中間に位置するJR高槻駅の北東地区街づくり計画が進む地域に新築移転した愛仁会リハビリテーション病院。この計画では、駅から商業施設、マンション、新病院、大学の順にデッキでつながり(現在工事中)、道路を挟んで面する愛仁会グループの高槻病院とも上空通路で連結する。関西圏では数少ないアクセス性に優れた都市型リハビリ専門病院である。

新病院は法人のフラッグシップである高槻病院をはじめ、大阪・三島医療圏の急性期医療の受け皿として、365日切れ目のない充実したリハビリの提供を通じ、在宅復帰を支援。2000年には大阪府から「三島圏域地域リハビリテーション支援センター」の指定を受け、リハビリの相談、啓発、専門職への教育など、さまざまな活動にも取り組んでいる。

今回の新築移転を機に、延床面積は約5倍に拡張され、リハビリ室は2倍以上の960㎡、廊下幅も2・7mを確保。4階には花や緑に囲まれた屋上庭園を設け、リハビリやくつろぎの場を創出した。セラピストもPT50人、OT38人、ST16人に増員、マンパワーを強化して質の向上に努めてきた。

「地域に根ざしたりハビリ専門病院として、設備、スタッフともに充実した環境を整備できました。以前は、当院の紹介患者の約半数が高槻病院からでしたが、移転後は他院からの紹介が増加するなど、より密接な地域およびグループ内での連携に努めています」と同院の山本欣宏院長は説明する。

このほか新たな試みとして、入院患者の約7割が車イスを使用することから、近鉄スマイルサプライ株式会社と共同で、各患者に応じた車イスの選定と貸し出しを無料で行っている。専門スタッフが院内に常駐し、メンテナンスにも対応。「適切な座位を確保することで誤嚥性肺炎を未然に防ぎ、喫食率向上につながるなど、すでに効果が現れています」(山本院長)

一方で、病院の特徴をより明確に打ち出した。回復期リハビリ病棟を130床から168床に増やすと同時に、障害者病棟57床を新設。「当地域は、医療的ケアが必要な障害者の治療施設が少ないので、障害者病棟を新設しました。特にNICUを退院した医療的ケアが必要な重度肢体不自由児を受け入れる施設がほとんどなく、在宅療養を支援する体制もありませんでした。当院はその中核となるべく、小児専用障害者病棟「ひまわり」をつくりました」(山本院長)

1階には、ケアプランセンター、訪問看護・ヘルパーステーションが入った「愛仁会高槻在宅サビセンター」を開設。安心して療養生活を送れるように、きめ細かな後方支援活動を実践している。「当院の理念である『再びその人らしい生活に』をテーマに、患者さま一人ひとりに応じた質の高いリハビリを実施し、地域のニーズに応えるトータルリハビリテーション病院をめざします」と抱負を語る。